

※委員からいただいた意見に基づき、事前に赤字部分を修正しました

茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和7年度施策評価(行政評価)

行政評価は、令和7年度に実施した各取り組みの実績評価です。施策ごとに、各取り組みが効果的に行われたかを市が評価したものです。

施策1 市民の文化芸術・学習機会の充実

■施策の方向

- 公演、展覧会等の鑑賞機会やワークショップ等の体験機会を提供し、市民が様々な文化芸術に触れる機会の充実を図ります。
- 誰もがいつでもどこでも参加することができる多種多様な学びの機会やその情報の提供の充実を図ります。
- 誰もが文化生涯学習活動に参加できる環境を整備するとともに、気軽に施設を訪れることができる環境を整備します。

■主な取り組み

1 文化芸術の鑑賞・体験機会の充実

① 舞台公演、体験ワークショップ

市民文化会館を中心として、音楽や演劇、落語など幅広いジャンルの公演を開催します。また、演劇やダンスを体験できるワークショップなどを実施し、様々な文化芸術に触れる機会の充実を図ります。

令和7年度の主な実績



市民ふれあいプラザコンサート

- ・市役所本庁舎1階市民ふれあいプラザにて、気軽にプロの音楽を楽しめるイベントとして親しまれる「市民ふれあいプラザコンサート」を開催しました。5月にはボサノバ、12月にはアイルランド音楽をプロの音楽家が演奏。コンサートを目当てに来庁される方、たまたま行き合った方などに音楽鑑賞の機会を提供しました（5月約300人、12月約200人）。
- ・指定管理施設である文化会館では、1年を通し、鑑賞・体験事業を合わせて40事業実施し、市内外から約33,500人の参加がありました。

② 美術作品を鑑賞できる展覧会

美術館を中心として、茅ヶ崎ゆかりの作家等による美術作品の展覧会を開催します。各展覧会では、展示作品を担当学芸員が解説するキュレータートークや展覧会の内容に合わせたワークショップなどを実施します。また、学校や地域の芸術団体と連携した展示などを実施し、美術に触れる機会の充実を図ります。

令和7年度の主な実績



・美術館展覧会の観覧者数は 25,910 人(企画展4回、共催展3回)、関連ワークショップの参加者は 1,778 人でした。

・美術館建築展の観覧者数は歴代5位となり、また日本アート評価保存協会から秀逸企画賞を授与されるなどの評価を得ました。



企画展名	会期	観覧者数
美術館建築 アートと建築が包み合うとき	4月1日～6月8日 (60日間)	7,637人
うつわの彩り 吉田耕三と北大路魯山人	6月17日～8月24日 (60日間)	5,374人
『白樺』日本における西洋美術の 導入と広がり	9月2日～11月9日 (60日間)	3,454人
菅野陽と浜田知明 銅版画の夜明け前	12月13日～2月23日 (58日間)	5,524人

・各展覧会の関連催事ではワークショップやアーティストトークを開催し、展覧会の魅力をより具体的、多角的に伝える工夫を行いました。

美術館建築 関連事業	開催日	参加人数
建築家講演会	4月26、29日、5月17日、6月8日	1,085人
茅ヶ崎発知育玩具「いろくみ」を使った造形ワークショップ	5月4日	39人
キュレータートーク	5月6日、6月7日	97人
劇作家・山本卓卓によるアフタートーク	6月12日	12人

うつわの彩り展 関連事業	開催日	参加人数
講師対談 うつわを集める楽しみ、みる楽しみ	6月22日	17人
講師対談 うつわを愛した吉田の素顔	6月28日	37人
キュレータートーク	7月12日、8月10日	104人

白樺展 関連事業	開催日	参加人数
キュレータートーク	9月6日、10月26日	34人
本づくりワークショップ	9月23日	31人
しおりワークショップ	10月13日	16人
講師講演会	11月2日	47人

菅野陽と浜田知明展 関連事業	開催日	参加人数
キュレータートーク	12月21日、1月17日、2月14日	36人
館長講演会	1月10日、2月21日	16人
講師講演会	1月13日	34人

茅ヶ崎美術家協会展 関連事業	開催日	参加人数
ワークショップ/色みつけ形みつけから抽象へ落書きよりおもしろい	3月8日	27人
かとうくみ ライブペインティング	3月8日	119人

③ 伝統的な文化を体験できる講座

松籟庵を中心として、伝統文化の体験講座やワークショップなどを開催します。また、日本庭園を眺めながらお茶を楽しめる季節の茶席などを開催し、日本文化に気軽に触れられる機会を提供します。

令和7年度の主な実績



松籟庵で開催した箏体験教室

- ・日本の伝統文化に触れるワークショップを6事業開催し、参加者は合計193人でした。
- ・松籟庵にて新緑と紅葉の季節に開催する呈茶席は、申込不要で気軽にたのしめる茶道で、例年満席となる事業ですが、7年度は5月の開催時に天候不良であったため例年より参加者が少なめとなりました（春・秋の合計172人）。
- ・文化会館で開催したチャレンジ!こども日本舞踊講座では、参加した子どもたちとともに、発表を見た保護者にも好評を得たワークショップとなりました（申込17人）。

2 学びの機会の充実

① 多様な主体による生涯学習講座

市職員が講師となり、市の取り組み等について学ぶことができる「市民まなび講座」や、まなびの市民講師の知識や技術等を生かした幅広い分野を学ぶことができる「まなびの市民講師自主企画講座」など、多様な学びの機会の充実を図ります。

また、大学や企業、NPO法人等と連携し、デジタル分野など、より専門的な特定の分野を学ぶことができる機会を提供します。

令和7年度の主な実績

・市民まなび講座は、全82メニューのうち、市民から開催依頼があった22メニュー・77講座を開催しました(3,805人)。特に市のごみ・防災・健康等の取り組みに関するメニューのニーズが多くありました。



文教大学連携講座

・まなびの市民講師自主企画講座は、令和7年度については、令和5年度から開催数が倍増した令和6年度をさらに上回り、224回を実施し、引き続き幅広い専門分野注)における学びの機会を提供しました(2,244人)。

注) 生成 AI・文学・ヨガ・手芸・フラダンス・語学・料理等

	5年度	6年度	7年度
講座開催数	110回	220回	224回
参加人数	1,365人	2,119人	2,244人

・立正大学と連携し、歴史をテーマとした立正大学デリバリーカレッジを2講座開催しました(105人)。

・文教大学及び青少年会館と連携し、ドローンをプログラミングして飛行させる講座を開催しました。(24人※定員を大幅に上回る192人の申込がありました。)

② 様々な手法による講座

生涯学習講座の開催に当たっては、従来の対面講座を希望する方々、対面では足を運ばない方々、様々な場所から気軽に参加したい方々など、多様な人が参加・交流できるよう、従来からの対面型の講座やオンラインを活用した講座、それらを組み合わせたハイブリッド型の講座など、様々な手法を用います。

令和7年度の主な実績



立正大学デリバリーカレッジ

・生涯学習では、対面及びオンラインを組み合わせたハイブリッド型の手法にて、立正大学デリバリーカレッジ(歴史)及び東洋大学生涯学習支援プログラム(文学)計3講座を開催しました

・令和7年度は令和6年度と比較し、オンライン参加者割合が増加しました。

	6年度	7年度
ハイブリッド講座開催数	5講座	3講座
対面参加者数	221人	68人
オンライン参加者数	100人	49人
オンライン参加者割合	約31%	約41%

③ 様々な情報の提供

市民まなび講座、まなびの市民講師や生涯学習サークル一覧等を網羅した生涯学習ガイドブックを発行するとともに、市が実施する学びの情報を集約した生涯学習ポータルサイト※を運営するなど、様々な情報発信ツールを活用し、学びに関する情報提供の充実を図ります。

令和7年度の主な実績



生涯学習ガイドブック表紙

- ・市民まなび講座、まなびの市民講師や生涯学習サークルの一覧等を網羅した生涯学習ガイドブックを発行し、市ホームページ掲載及び各公共施設に配架しました。
- ・市が実施する学びの情報等を集約した生涯学習ポータルサイトを運営しました。

生涯学習ポータルサイト	6年度	7年度
アクセス数	3,944件	3,475件

3 インクルーシブ※な事業展開・施設運営

① アウトリーチ※事業

文化芸術に触れる機会の少ない方や様々な事情で施設まで足を運べない方々に生の文化芸術を届けることを目的として、福祉施設や人が集まる場所などへのアウトリーチ事業を実施します。

令和7年度の主な実績



旧南湖院第一病舎の写真

- ・市史講座として、茅ヶ崎 太陽の郷 博修館を会場に療養者がどのような青春を送り、どのような恋愛観を抱いていたのかをテーマに「南湖院・療養の日々-青春と恋愛」(39人)を開催し、同施設への理解を深めました。
- ・昔の写真・特定歴史公文書等に関する展示として、「ラスカ茅ヶ崎開業40周年記念×昔の写真展 写真で綴る あの日のちがさき」をテーマに、4月18日(金)から4月30日(水)までラスカ茅ヶ崎5階 イベントスペースにて実施し、市民等へ周知啓発を行いました。

② 市民の特性やニーズに応える多様な場の提供

子育て中の保護者の息抜きの場や新たな仲間づくりの場、交流の場となる事業や子どもの居場所の確保を目的とした事業など、市民のニーズに応える多様な場を提供します。

令和7年度の主な実績



いこいの場プロジェクト

・市民文化会館では音楽やアートに気軽に触れられる空間を創出し、アートを通じた育児支援、多世代交流、学校に行きづらい子どもの居場所づくりを行いました。アートに触れる場では、大会議室に色鉛筆やクレヨンなど画材を置いて、誰でも自由の出入りできる場とすることで、作品に集中する方、交流を求めて会話をする方、個々のスタイルで利用できる空間としました。小さな子ども連れや高齢者など幅広い世代が参加者どうしの交流や各々の時間を楽しむなど、外に出る機会に繋がりました(828人)。

・ハマミーナまなびプラザでは、引き続き子どもから大人まで誰でも使用できるフリースペースを運営しました。学生が自習の場として活用するケースが多かったです。(6,774人)

・保健師によるこんにちはあかちゃん訪問の際に、子ども連れて美術館を無料観覧できる「あかちゃんとおとなの方へのウェルカムカード」を配布し、子どもを連れて美術館に訪れる機会の創出に努めました(配布1,463件、利用者大人144人・乳幼児87人)。

③ 多様な人が活動に参加できる環境の整備

障がい者、ジェンダー^{*}、世代等を問わず、様々な背景を持つ方々が文化生涯学習活動に参加し、体験できる機会を提供します。

また、施設における合理的配慮^{*}の実現に向け、障がいの特性に配慮した情報保障(日本語字幕、手話通訳、音声ガイド等)の充実や物理的なバリアへの対応など、施設のバリアフリー化を進めます。

令和7年度の主な実績

・生涯学習では、対面では足を運べない方も受講できる、対面及びオンラインを組み合わせたハイブリッド型の講座を開催しました。また、障がい者支援者、子どもから大人まで幅広い年代を対象とした生涯学習講座^{注)}を開催しました。

注) 障がい児支援者向けペアレントトレーニング、親子料理教室、シニア向け体操教室等

【成果】

- ◆音楽や演劇、美術の鑑賞の機会、茶道や舞踊などのワークショップや公演を開催し、様々な分野の文化芸術に触れる機会を提供しました。
- ◆生涯学習については、大学講師による専門性の高い講座、数多くのまなびの市民講師による幅広い内容の講座、市職員による行政課題に関する講座など、子どもから高齢者まで幅広い年代に対して、学習機会の充実を図りました。
また、生涯学習ポータルサイトについて引き続き運営し、生涯学習情報の一体的な発信を行いました。

【課題】

- ◇障がい者、ジェンダー、世代等を問わず、様々な背景を持つ方々が、文化生涯学習活動に参加できるよう、ハイブリッド型の講座に加えて、様々な手法を用いて多様な機会を提供することが必要です。

※ポータルサイト:インターネットにアクセスするときの入口となるウェブサイトのことをいいます。ここでは文化生涯学習活動を探すためのウェブサイトを指しています。

※インクルーシブ(inclusive):包摂(ほうせつ)的な、全てを包み込むという意味です。エクスクルーシブ(exclusive:「排除的な、排他的な」)の反対の概念であり、様々な背景を持つあらゆる人が排除されない状態を指しています。

※アウトリーチ:本来の意味は「手を伸ばすこと」です。本プランでは、日頃、文化芸術や生涯学習に触れる機会が少ない市民に対して、主に施設外での事業の実施や出前講座等の働きかけを行う活動を意味しています。

※ジェンダー:生物学的な性別ではなく、社会的・文化的に作られた性別のことです

※合理的配慮:障がいのある方々の人権が、障がいのない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせて行われる配慮のことです。令和3(2021)年6月、行政・学校・企業などの事業者に対して提供を義務付けられました。

■施策の方向

- 市民の文化生涯学習活動を支援する人(支援者)の育成を図り、誰もが活動の担い手となり次世代へ伝えていく環境をつくれます。
- 市民の文化生涯学習活動や発表の場づくりを行うとともに、イベントの開催や広報等の支援を行います。
- 文化芸術を通じた教育の充実を図るとともに、教育現場が子どもの成長に合った事業を展開できるように支援します。

■主な取り組み

1 支援者の開拓と育成

① 支援者の開拓

様々な学習分野に対応できる人材バンク「まなびの市民講師制度※」について積極的に周知を図り、学びの受け手だけでなく担い手として活躍したい市民のニーズを引き出し、支援者の新規登録を促します。

令和7年度の主な実績

- ・まなびの市民講師制度について、生涯学習ポータルサイト、生涯学習ガイドブック、講座等にて多角的に周知を図り、随時登録申し込みを受け付けました。
(新規登録者27人(全体:9分野・登録者126人))

② 支援者の育成

まなびの市民講師をはじめとする支援者の講座スキルを向上させるため、多様なセミナーを実施します。さらに、数多くの講座ブースを設ける「学びフェスタ」を開催するなど、講師経験の場を提供し育成を図ります。

令和7年度の主な実績



生涯学習支援者養成講座

- ・まなびの市民講師をはじめ、生涯学習支援者のスキル向上を図るため、「生涯学習支援者講座」として、①オンラインデザインツール Figma を使用した Web デザイン基礎講座、②生成AIを活用してホームページを作成する講座、及び③オンラインデザインツール Canva を活用して伝わるチラシのコツを学ぶ講座、を開催しました。
- ・11月にハマミーナまなびプラザ各貸室を活用して講座開催場所を設ける「学びフェスタ」を開催し、まなびの市民講師の講師経験の場を提供しました。(講師22人)

2 市民活動の支援

① 活動や発表の場づくり

市民が自発的に行う文化生涯学習活動(創作、練習、稽古、発表、講座の開催等)を支援するため、各施設の役割(第4章 1 (1)③市の役割参照)のもと、特性を生かした施設運営を行います。

令和7年度の主な実績



ハマミーナまなびプラザ音楽室

・ハマミーナまなびプラザは、学校教育以外の学びの場、市民の交流の場として、音楽室・体育室等の貸し出しを行い、市民の文化生涯学習活動における練習、稽古、まなびの市民講師の講座開催等を支援しました。貸室の中で、音楽室・体育室は約85%と利用率がかなり高くなっています。

利用者数	5年度	6年度	7年度
	26,189人	29,393人	30,121人

② 文化芸術に関するイベント

市民の文化芸術活動の発表と交流の場を目的としたイベントを開催し、子どもを含む幅広い世代が日頃の活動から一歩進んだ活動ができる環境をつくります。

また、イベントの開催に当たっては、文化芸術活動を行う様々な団体と連携します。

令和7年度の主な実績



高校生バンド応援企画

・10月～11月に開催する茅ヶ崎みんなのアートフェスは、文化芸術フェスティバルとして令和5(2024)年から市民文化会館で実施しています。高校生バンド応援企画「でっかいホールで演奏するぜ!」は、茅ヶ崎在住・在学者がいる高校生バンドであれば原則誰でも参加でき、令和7年度は普通科、支援学校、通信制の高校から7グループの参加がありました。

・市内商業施設の協力のもと、多くの人が行き交う商業スペースで市民団体と連携した文化芸術活動の発表及び交流の場となる市民展示会を2回開催し、約90人の参加がありました。

③ まなびの窓口の運用

ハマミーナまなびプラザ等に「まなびの窓口」を設置し、学習相談を受け付けている教育委員会の各公民館とも連携しながら、市で実施されている多様な文化芸術・生涯学習事業等に関する

る情報提供や、市民活動団体※・サークルの紹介等、市民それぞれが求める学びにつながるサポートをします。

令和7年度の主な実績

・ハマミーナまなびプラザ等にまなびの窓口を設置し、サークルに関する相談等、市民からの学習相談を受け、案内をしました。(相談件数:13件)

④ 広報等の支援

市内で開催される文化芸術・生涯学習に関する催しや市民活動団体等の活動情報など、市民が文化生涯学習活動を行う際に必要とする情報を広報紙やホームページ、SNS など様々な媒体を使って提供します。

令和7年度の主な実績

・生涯学習では、市民のサークル情報を含む生涯学習情報を網羅した冊子「生涯学習ガイドブック」の発行、市が実施する学びの情報等を集約した生涯学習ポータルサイトを運営、生涯学習に関する催し・生涯学習支援者向けの講座についてSNSを活用し情報提供しました。
・市内で開催される文化芸術・生涯学習に関する催し等について市の名義後援を行い、当該事業の広報紙への掲載やチラシの公共施設への配架など、広報支援を行いました。

3 教育の支援

① 学校等における文化芸術鑑賞・体験機会の提供

文化芸術を通して子どもたちの豊かな創造性や感受性が育まれるよう、音楽や演劇、ダンス、伝統芸能、美術等、様々な分野の鑑賞・体験機会を提供します。

また、教員等を対象とする事業を実施することで、授業等における鑑賞・体験機会の効果的な活用方法等を共有し、文化芸術による教育のさらなる充実を図ります。

令和7年度の主な実績



アーティスト出張ワークショップ

・文化芸術教育プログラム事業を実施し、児童・生徒及び学校の教職員等を中心にアートに触れる機会を提供しました。文化会館で4事業、美術館で5事業、松籟庵では1事業を実施し、子どもから大人まで約4,000人が参加しました。

・学校へアーティストが訪問するアウトリーチ事業では、子どもたちの鑑賞体験とともに、担当教諭も体験機会があるなど、子どもたちと一緒に経験できる機会となっています。

② 教育現場で活用できる学びの機会の提供

子どもたちに多様な学びの機会を提供するため、市職員が講師となり、市の取り組み等について学ぶことができる「市民まなび講座」等について、小中学校など教育現場での活用の検討を進めます。

令和7年度の主な実績

・現在登録のある「市民まなび講座」において、小中学校で活用可能かどうか確認を行うための準備を行いました。

③ 子どもたちが継続的に文化芸術活動に親しむことができる環境の整備

文化庁が策定した「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、子どもたちが参加することができる地域の芸術文化活動の場を創出するために必要な対応について、教育委員会と連携を図りながら検討を進めます。

令和7年度の主な実績

・学校の部活動やクラブ活動の地域展開に関し、教育委員会と情報共有を行いながら、県部活動地域移行連絡会や文化部活動の地域展開に関するオンライン交流会に参加したり、県教育委員会から地域クラブ活動コーディネーター等を招聘し、助言をいただいたりする等、他自治体事例の確認等を行いました。引き続き、教育委員会と一緒に実施可能な形を研究することとしています。

令和7年度実績の施策評価

【成果】

- ◆生涯学習においては、引き続き、まなびの市民講師制度を運営及び周知するとともに、講座開催時における会場の確保から、広報紙及びメール配信等による周知等の支援を行いました。また、CanvaやAI等に関する講座を開催し、生涯学習支援者のスキルアップを図り、学びフェスタでは数多くの講座開催ブースを設け、まなびの市民講師の講師デビューを促しました。
- ◆文化芸術教育プログラム事業は、日本伝統文化やデジタルツールを活用したアート作成など、多様な文化芸術の体験・鑑賞の機会を児童・生徒に提供しました。

【課題】

- ◇文化芸術教育プログラム事業は、令和5年度から3年間の計画で実施しました。全15事業のうち14事業を終了、1事業のみ継続します。教育現場での活用など、様々な課題や実効性について、手法と必要性を見直し、計画を再検討します。

-
- ※まなびの市民講師制度：市では、様々な分野において豊富な経験や資格をお持ちの方や専門的な知識や技術をお持ちの方に生涯学習における身近な支援者「まなびの市民講師」として登録しています。登録分野は「家庭生活・趣味」、「教育・育児」、「自然・環境」、「文化・芸術」「健康・スポーツ」など多岐にわたっています。
- ※市民活動団体：市民活動を行うものを示し、市民や事業者を含みます。また、団体として組織的に市民活動を行うものを「市民活動団体」としています。

■ 施策の方向

- 茅ヶ崎の文化的特性について、学際的[※]な視点で市民とともに調査・研究を行い、その価値を未来へ継承します。
- 茅ヶ崎にゆかりのある人物たちの業績や気質を調査・研究し、その人物の素顔や茅ヶ崎との関わりなどを広く市民と共有します。
- 誰もが文化資源を活用できる機会を提供し、学習や研究の活動を支援するとともに、その成果を発表する場を提供します。

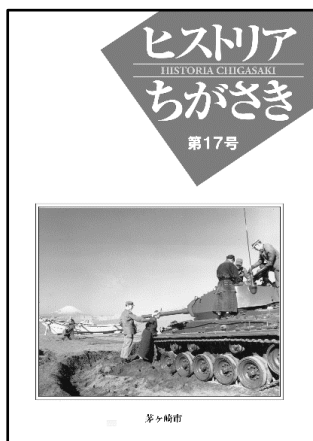
■ 主な取り組み

1 文化資源の調査・研究、保存、維持・継承

① 歴史資料の収集、整理、保存

市民共有の知的資源である特定歴史公文書等[※]、その他歴史的な資料を収集し、茅ヶ崎の歴史を次の世代へ継承していきます。また、市史編さん事業で蓄積した研究成果を分かりやすく、より多くの方々へ還元するため、編集・刊行している「ヒストリアちがさき」や全国的にも歴史的価値が高い日記等を翻刻[※]し、発行している「茅ヶ崎市史史料集」をはじめとした市史刊行物を作成するなど、専門家とも連携しながら茅ヶ崎の貴重な歴史的資料の収集、整理、保存を行います。

令和7年度の主な実績



・市史編さん事業で蓄積した研究成果として、ヒストリアちがさき第17号を印刷製本中、令和8年夏に配架予定です(400部)。本号は、戦後80年をテーマに戦前から戦後の茅ヶ崎、茅ヶ崎への学童集団疎開を取り上げました。

【主な内容】

特集：「戦争と茅ヶ崎-1937~1959」

コラム：「茅ヶ崎への学童集団疎開～横須賀市からの疎開～」

ヒストリアちがさき第17号イメージ

② 美術品の収集、調査研究

茅ヶ崎の歴史・風土等を反映した特色ある郷土美術の発展に資するため、茅ヶ崎にゆかりの深い美術家の作品や茅ヶ崎を題材とした作品等を中心として体系的な収集活動や調査研究を行い、後世に継承します。

令和7年度の主な実績

・令和7年度第1回茅ヶ崎市美術品審査委員会を開催し、寄附申出のあった茅ヶ崎ゆかりの作家の絵画について美術館への受入れ適否を審査しました。

③ 茅ヶ崎ゆかりの人物の調査研究

茅ヶ崎の貴重な文化資源である「人」に焦点を当てた調査、研究、収集、整理、保存を市民とともに進めます。茅ヶ崎ゆかりの人物館では、ゆかりの人物たちがどのように茅ヶ崎を愛し、文化を創造してきたか、市民とともに調査研究を行う「ゆかりラボ」事業を実施し、そこから未来を創るヒントを学んでいきます。

また、開高健記念館では、芥川賞受賞作家である開高健が愛用した品々や執筆した作品、行動する作家と呼ばれた開高のルポルタージュ[※]や取材の跡から、世界観、功績などを紹介し、後世に継承していくとともに、市民が文学に触れる機会を創出します。

令和7年度の主な実績



企画展の様子

・茅ヶ崎ゆかりの人物館における前期企画展「木村義雄展」では、親族による貴重なエピソードや愛用品を展示し、大手新聞社のニュースサイトに取り上げられるなど、周知を図ることができました。後期の「山田耕筰展」では、「赤とんぼ」の直筆譜や本人が着用したモーニングなどの貴重物品を展示し、ゆかりの人物を顕彰しました。

・開高健記念館における展示では、「ベトナム戦争」という開高の生涯にわたる大きなテーマを扱い、従軍取材中の開高がベトナムから担当編集者に送った未発表の書簡や、当時の同行カメラマンの写真などを展示することで、開高健の魅力を多角的に分析し、厚みのある展示となりました。

施設名	企画展名	会期	来館者数
茅ヶ崎 ゆかりの 人物館	十四世名人木村義雄展 盤を超えた茅ヶ崎の暮らし	6月7日～9月28日 (54日間)	810人
	山田耕筰展 童謡「赤とんぼ」誕生と茅ヶ崎	10月25日～3月29日 (71日間)	1,091人
開高健 記念館	開高健 ベトナムとの「訣別」 自選短篇集『歩く影たち』展(前期)	6月7日～9月28日 (54日間)	1,004人
	開高健 ベトナムとの「訣別」 自選短篇集『歩く影たち』展(後期)	10月25日～3月29日 (71日間)	1,187人

2 文化資源の活用・公開

① 歴史資料に関する研究成果の公開

収集した特定歴史公文書等は整理するとともに、現在所蔵している資料を含め適切に保管し、市民がこれらの資料を利用できるよう目録の公表を進め、専門家による研究成果を広く市民に公開、共有します。

令和7年度の主な実績



特定歴史公文書等

- ・令和6年度末で現用文書の保存期間が満了し、令和7年度に特定歴史公文書等として選別が完了した目録（平成6年度、平成26年度、平成31年度、令和3年度、令和5年度分）を公表しました。
- ・特定歴史公文書等の利用請求がありました（請求数52件、文書件数205件）。
- ・特定歴史公文書等の利用文書件数が昨年度は146件でしたが、約1.4倍に増加しました。

② 資料を活用した普及啓発

市史編さん事業の成果を知っていただくため、「ヒストリアちがさき」や、一つのテーマを採り上げて読みやすい文章でまとめた「茅ヶ崎市史ブックレット」を活用した講座等を開催するなど、多くの人々に茅ヶ崎の歴史を知っていただく機会を創出します。また、歴史資料の利用促進のため、展示等の周知活動を行います。

令和7年度の主な実績



写真展の様子

カ茅ヶ崎開業40周年記念×昔の写真展 写真で綴る あの日のちがさき」をテーマに、4月18日（金）から4月30日（水）までラスカ茅ヶ崎5階イベントスペースにて実施し、市民等へ周知啓発を行いました。

- ・市史講座として、茅ヶ崎 太陽の郷 博修館を会場に療養者がどのような青春を送り、どのような恋愛観を抱いていたのかをテーマに「南湖院・療養の日々-青春と恋愛」（39人）を開催し、同施設への理解を深めました。
- ・「戦争と茅ヶ崎 1941年～1953年」（42人）を開催し、太平洋戦争開戦の年から朝鮮戦争休戦の年における茅ヶ崎をテーマに、戦争の記憶と平和の大切さを次の世代へ伝えていく取り組みを行いました。
- ・昔の写真・特定歴史公文書等に関する展示として、「ラス

③ 茅ヶ崎ゆかりの人物に関わる研究結果の公開

市民の地域アイデンティティ※を高めることを目的として、茅ヶ崎にゆかりのある人物を通じた茅ヶ崎という地域の調査研究を行い、その成果を市民に還元します。

「ゆかりラボ」事業で身につけた専門的な知識やスキルなどの成果を茅ヶ崎ゆかりの人物館における展示等で発表します。

令和7年度の主な実績



展示関連イベントの様子

- ・令和7年度前期企画展「十四世名人木村義雄展 盤を超えた茅ヶ崎の暮らし」の関連イベントとして、棋士・森下卓九段が木村義雄十四世名人や将棋界について語る講演会を開催しました。
- ・後期企画展「山田耕筰展 童謡「赤とんぼ」誕生と茅ヶ崎」の関連イベントとして、講演会「山田耕筰を探して」や、山田耕筰生誕140年記念「茅ヶ崎赤とんぼ音楽祭」を開催しました。

④ 現存する文化資源の利活用

茅ヶ崎の文化的発展の足跡を示す現存する資源等の利活用に努めます。旧南湖院第一病舎は、明治期から昭和20(1945)年頃まで結核療養所として使用されました。同施設を保存・継承するため、「旧南湖院第一病舎等利活用基本方針」に基づき、維持・管理に向けた事業を進めます。

また、当時の資料も多く残されているため、これらの資料を保存、公開、展示できるよう整備します。

令和7年度の主な実績



旧南湖院第一病舎

- ・旧南湖院第一病舎の維持管理を行いました。

⑤ デジタルアーカイブ※の公開

市史に関する資料や美術館における収集活動及びそれらの調査研究の成果を後世に継承するため、資料や記録等のデジタルアーカイブ化を行います。

また、市民がデジタルアーカイブを閲覧できるようインターネット上で公開するとともに、内容の充実を図ります。

令和7年度の主な実績



ちがだべ (デジタルアーカイブ)

・市史編さんに係る写真資料123点を順次公開しました。

令和7年度実績の施策評価

【成果】

- ◆市史編さん事業で蓄積した研究成果を分かりやすく、多くの皆様へ還元するため、「ヒストリアちがさき第17号」を印刷製本中、令和8年夏に配架予定です。
- ◆茅ヶ崎の歴史について広く周知するため、市史編さん担当が作成した刊行物を頒布しており、令和8年2月から有隣堂ラスカ茅ヶ崎店での頒布を新たに始めました。
- ◆令和7年度からは、期間限定セットに加え通年の割引販売セットの頒布を始めました。
- ◆特定歴史公文書等として選別が完了した目録を公表しました。
- ◆市史編さん事業の成果を知っていただくため、南湖院や太平洋戦争開戦の年から朝鮮戦争休戦の年における茅ヶ崎に関する市史講座を実施しました。
- ◆昔の写真と特定歴史公文書等に関する展示を行い、市民等へ広く周知啓発を行いました。
- ◆ゆかりの人物に関する調査研究や展示を行いました。

【課題】

- ◇調査研究により蓄積した成果は、あらゆる世代が市史をわかりやすく楽しく学ぶことができるよう工夫を凝らしながら多様な手法を用いて事業を展開していく必要があります。
- ◇調査・収集した資料を有効に活用するため、庁内における更なる連携を進めながら市民等へ情報提供していく必要があります。

※学際的：学問や研究が複数の異なる範囲や領域にまたがっていることを指します。

※特定歴史公文書等：歴史資料として重要な文書であって市民共有の知的資源として永久保存する文書のことで、寄贈、寄託文書を含みます。

※翻刻(ほんこく):すでにある本や原稿を木版や活版で新たに起こし刊行することです。

※ルポルタージュ:事件や社会問題などを綿密に取材して事実を客観的に叙述する文学のジャンルの一つです。報告文学や記録文学とも呼ばれます。

※地域アイデンティティ:地域の独自性を高め、表現することにより、その地域の活性化を図ることを指します。

※デジタルアーカイブ:文書や文化資源などを電子データの形で長期的に保管する記録方式のことです。

施策4

個性豊かで愛着あるまちづくり

■施策の方向

- 茅ヶ崎の文化をさらに発展させていくため、創造力にあふれた人材が集まり、育つ環境づくりを進めます。
- 市内に点在する文化資源を生かし、市民それぞれに茅ヶ崎が愛着と誇りあるまちとなるよう地域の価値を高める取り組みを進めます。
- 教育、福祉、経済、まちづくりなどの他分野や市民活動団体や企業、学校等、様々な主体と連携・協働[※]し、総合的な事業展開を図ります。

■主な取り組み

1 クリエイター[※]が集まり、育つまち「クリエイターシティ・チガサキ」の形成

① クリエイターが集まる場の創出

明治から大正期の旧南湖院第一病舎には多彩な表現者が訪れました。その歴史の上に立ち、次世代のまちの原動力となる「ひと」が集い、未来を志向し、新しい価値を生み出す場として、登録有形文化財である旧南湖院第一病舎や文化生涯学習活動の拠点となる施設をクリエイターが集まり、創作活動や展示発表、ワークショップなどの拠点として使用できる場として活用します。

令和7年度の主な実績



・生涯学習活動の拠点として、子どもから大人、高齢者まで様々な世代が集いながら学び、交流できるハマミナーまなびプラザを運営しました。

② 次世代のクリエイターが育つ環境づくり

文化芸術に関するイベントやワークショップ、講座等を開催することで、子どもたちを中心に幅広い世代にクリエイティブな職業や活動に興味を持っていただくとともに、次世代のクリエイターの育成や発掘につなげます。また、各施設や文化資源と連携し、クリエイターの活動を支援するとともに、市民が文化芸術に関わる機会を創り出すことで、市内各所に新たなアイデアが生まれる創造的な環境をつくります。

令和7年度の主な実績



クリエイターシティチガサキ・シンポジウムの様子

- ・クリエイターシティチガサキ・シンポジウム「文化×創造力で未来をつくる」を開催しました（63人）。当日は、クリエイターシティ・チガサキプロモーションビデオの上映も行いました。
- ・本市ゆかりの小説家鳴神響一氏を講師に招いた講演会（60人）や、クリエイター養成講座として市内の中学生を対象に記事の書き方や写真の撮り方を本物の記者から学ぶワークショップ（3人）を開催しました。

③ ユネスコ創造都市ネットワーク※への加盟

クリエイターにより生み出された新たな価値を、日本国内、さらには世界に向けて発信するため、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指します。加盟することで、文化芸術分野における市民意識の高まりが図られるとともに、他の地域との文化的な連携が進み、市民レベルでの国際的な文化交流が期待でき、茅ヶ崎のさらなる文化の振興と経済発展などが期待できます。

令和7年度の主な実績



クリエイターシティ・チガサキ ロゴ

- ・昨年度行った創造都市宣言を踏まえ、市内の創造的な取り組みを紹介する「クリエイターシティ・チガサキ」のプロモーションビデオやロゴを制作しました。
- ・昨年度開設したクリエイターシティ・チガサキのホームページを更新し、事業の周知を図りました。

2 文化資源を生かしたまちの価値の向上

① 新たな価値を生み出す文化資源の活用

茅ヶ崎の文化的な特性を示す文化資源を活用することで、市民の文化資源に対する知識や理解が深まり市民の茅ヶ崎への愛着の醸成につなげるため、国登録有形文化財である「旧南湖院第一病舎」や「旧藤間家住宅主屋」、「旧氷室家住宅主屋」をはじめとする文化資源を調査し、保存や公開、新たな利活用に向けた取り組みを進めます。

令和7年度の主な実績



旧藤間家住宅

・旧藤間家住宅の利活用に向けて、耐震補強基本設計及び保存活用計画の策定を行いました。また、市民との討議会を開催し、活用のアイデアを考えると同時に、ニーズ把握を行いました。

・旧南湖院第一病舎の維持管理を行いました。

② 様々な資源とつながる取り組みの展開

文化資源だけでなく、市内に存在する様々な資源とつながる取り組みを進め、その魅力を発信することで地域の価値を高め、観光の促進など、まちの活性化に寄与します。

令和7年度の主な実績



メッセージボードの様子

・昔の写真・特定歴史公文書等に関する展示として、「ラスカ茅ヶ崎開業40周年記念×昔の写真展 写真で綴る あの日のちがさき」をテーマに、4月18日（金）から4月30日（水）までラスカ茅ヶ崎5階イベントスペースにて実施し、市民等へ周知啓発を行いました。

また、同会場に「記憶で綴(つづ)る あなたのちがさき」と題したメッセージボードを設置し、観覧いただいた皆様からラスカ茅ヶ崎やJR茅ヶ崎駅に関するエピソードや思い出などをお寄せいただきました。

3 様々な分野・実施主体との連携による総合的な事業展開

① 生涯学習事業のコーディネート

多様な主体が行う生涯学習に関する事業の情報を収集・管理し、各事業のコラボレーションを促したり、事業内容を調整したりすることで、効率的かつ体系的な事業展開ができるよう生涯学習事業のコーディネートを行います。また、生涯学習ポータルサイトに事業の情報を集約するとともに、一体的に情報を発信することで、市民が、求める学びにつながりやすい環境をつくり、市民の学びの機会の充実を図ります。

令和7年度の主な実績



・市が実施する学びの情報等を集約した生涯学習ポータルサイトを運営しました。

・同ポータルサイト内の「まなびスタートアップ!市の講座ナビ」では、市及び教育委員会の講座・講演会情報を集約し、文化・生涯学習、歴史・文学、こども・子育て・教育など種類別に情報発信を行いました。サイトの周知として、市のトップページの回転バナーへの掲載、LINE 配信、まなびの市民講師自主企画講座チラシに二次元コードを記載しました。

まなびスタートアップ! 市の講座ナビ アクセス数	6年度	7年度
	5,538件	9,636件

② 地域の賑わいの創出

ハマミーナまなびプラザを会場に、まなびの市民講師の多様な講座を提供する「学びフェスタ」、NPO法人が様々なあそび体験を提供する「あそびフェスタ」、商業施設事業者がステージ発表の場を提供する「BRANCHフェスタ」を合同で「しろやまフェスタ」として開催し、地域の賑わいを創出するとともに様々な学び・体験の機会を提供します。

令和7年度の主な実績



学びフェスタ

・商業施設事業者及び NPO 法人と共催にて、しろやまフェスタを開催し、市南西部地区の賑わいを創出しました。

学びフェスタは、ハマミーナまなびプラザ各貸室を中心にハマミーナ1～3階を使用し、まなびの市民講師がアート、料理、工作、手芸、語学等、多様なワークショップ（22回）を開催しました。参加者は、昨年度より大幅に増加しました。（123人⇒328人）

あそびフェスタは、キッズダンスの発表やラグビーの体験会を、BRANCHフェスタは、道の駅ちがさきとのコラボレーションイベントを開催しました。

③ 国内外の都市との交流

姉妹都市のホノルル市・郡との国際親善を図ることを目的とした青少年交流やイベントを通じた民間ベースでの交流、美術館同士の交流による異なる文化や歴史の調査研究、ゆかりのまち岡崎市との青少年による交流など、国内外の都市との様々な交流を通して、双方の歴史、文化等を享受し学び合うことで、地域文化の発展に寄与します。

令和7年度の主な実績

・「絵本がつながる国際芸術文化交流」事業として、茅ヶ崎ゆかりの絵本作家の作品を、茅ヶ崎市国際交流協会の協力により、インドネシア語に翻訳しました。絵本に翻訳シールを貼り、インドネシア語でしおりにメッセージを書くイベントを3回にわたり開催し、完成した絵本としおりをインドネシアの小学校に贈りました。



本市からインドネシアへ寄贈した絵本としおり

令和7年度実績の施策評価

【成果】

- ◆生涯学習分野においては、企業及びNPO法人と連携・協働し、地域のイベントを創出するイベントである「しろやまフェスタ」を開催し、地域の賑わいを創出しました。
市及び教育委員会にて実施される講座・講演会をまとめたサイト「まなびスタートアップ！市の講座ナビ」については、6年度と比較し、約1.7倍の閲覧数となりました。
- ◆「クリエイターシティ・チガサキ」の形成に向けて、イベント等の開催をはじめ、プロモーションビデオやロゴの制作など、様々な手法を活用して周知を行うことができました。

【課題】

- ◇生涯学習においては、事業のコーディネートについて、一体的に情報を発信するサイト「まなびスタートアップ」の閲覧数については、伸びており、浸透は進んでいる状況ですが、多様な主体が行う生涯学習に関する事業の情報を収集した中で、類似事業において周知を行う等の広報連携を行うまでに留まっており、他部局の類似事業の連携や各事業のコラボレーションを促すなどのコーディネートを行うまでは至っていません。
- ◇ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟については、文学分野に限らず、映画や音楽など、様々な分野の文化活動が行われている本市の特徴や、財政状況も勘案した上で、改めて対応を検討する必要があります。

※協働：茅ヶ崎市市民活動推進条例第2条で「協働とは、市、市民活動を行うもの、市民及び事業者が共通する目的の実現に向けて、それぞれの果たすべき役割と責任を理解し、互いの特性を生かして協力し行動することをいう。」と規定されており、協働の実施形態には、「委託」、「指定管理者」、「事業協力」、「実行委員会」、「共催」、「補助」、「後援」などが挙げられています。

※クリエイター：造物主、創造的な仕事をしている人、創造者、作家のことで、小説家、詩人、映画監督、作詞家・作曲家、美術家、建築家、デザイナー、アニメ作家などを指します。

※ユネスコ創造都市ネットワーク：ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN: the UNESCO Creative Cities Network)は、世界遺産等とは異なり、条約に基づくものではなく、ユネスコが主体として実施する事業です。世界の加盟都市は295都市で、7分野(文学、映画、音楽、クラフト&フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化)のいずれかに分類されています。日本では10都市が加盟認定されています(令和3(2023)年9月15日現在)。